

平成21年9月期 第1四半期決算短信

平成21年1月30日

上場会社名 株式会社 梅の花
 コード番号 7604 URL <http://www.umenohana.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 梅野 重俊
 問合せ先責任者 (役職名) 専務取締役 (氏名) 本多 裕二
 四半期報告書提出予定日 平成21年2月9日

上場取引所 東

TEL 0942-38-3440

(百万円未満切捨て)

1. 平成21年9月期第1四半期の連結業績(平成20年10月1日～平成20年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
21年9月期第1四半期	7,677	—	170	—	△59	—	103	—
20年9月期第1四半期	7,621	43.9	266	△43.5	227	△51.3	59	△75.5

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
21年9月期第1四半期	1,801.36	—
20年9月期第1四半期	1,022.97	—

(2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率		1株当たり純資産	
	百万円	円 銭	百万円	円 銭	%	円 銭	円 銭	
21年9月期第1四半期	21,053	—	3,626	—	17.2	—	62,596.79	
20年9月期	19,414	—	3,524	—	18.1	—	60,825.56	

(参考) 自己資本 21年9月期第1四半期 3,611百万円 20年9月期 3,509百万円

2. 配当の状況

(基準日)	1株当たり配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	年間
20年9月期	—	—	—	—	—
21年9月期	—	—	—	—	—
21年9月期(予想)	—	—	—	500.00	500.00

(注) 配当予想の当四半期における修正の有無 無

3. 平成21年9月期の連結業績予想(平成20年10月1日～平成21年9月30日)

(%表示は通期は対前期、第2四半期連結累計期間は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭	
第2四半期連結累計期間	14,767	—	277	—	169	—	86	—	—	1,497.12
通期	28,035	△1.7	396	796.6	175	—	38	—	—	669.87

(注) 連結業績予想数値の当四半期における修正の有無 無

4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) 無
 新規 — 社(社名) 除外 — 社(社名)

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 無

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更(四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更)に記載されるもの

① 会計基準等の改正に伴う変更 有

② ①以外の変更 無

(注) 詳細は3ページ「定性的情報・財務諸表等 4. その他」をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む) 21年9月期第1四半期 57,700株 20年9月期 57,700株

② 期末自己株式数 21年9月期第1四半期 一株 20年9月期 一株

③ 期中平均株式数(四半期連結累計期間) 21年9月期第1四半期 57,700株 20年9月期第1四半期 57,700株

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

上記に記載した予想数値は、現時点における将来の見通し、計画のもととなる前提、予測を含んでおります。

実際の業績等は、業況の変化等により、上記予想数値と異なる場合があります。

(四半期連結財務諸表)

当連結会計年度より「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号)及び「四半期財務諸表に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第14号)を適用しております。また、「四半期連結財務諸表規則」に従い四半期連結財務諸表を作成しております。

定性的情報・財務諸表等

1. 連結経営成績に関する定性的情報

当第1四半期連結会計期間における我が国経済は、世界的な金融危機の深刻化や世界景気の一層の下振れ懸念が存在する中で、個人消費は先行きに対する不透明感により低迷し、雇用情勢は急速に悪化しつつある状況で推移いたしました。

このような状況のもと当社グループは、「第二創業期」と位置づけ、世の中のニーズに応え満足を提供することに心がけました。平成20年10月より8社あった国内子法人を3社に統廃合し、間接部門及び製造部門の統合、グループ全社の電算システムの統合を行い、業務効率の向上を図りました。

自社オリジナルの「とうふしゅうまい」を製造するセントラルキッチン久留米では、製品の安定生産と品質向上を目的に、トンネルスチーマー及びフリーザーを導入いたしました。

店舗の出退店につきましては、外食店1店舗出店、テイクアウト店8店舗出店、当第1四半期末の店舗数は240店舗（F.C.店1店舗含む）となりました。

以上の結果、当第1四半期の連結業績は、売上高76億77百万円（前年同期比0.7%増）、営業利益1億70百万円（前年同期比35.9%減）、経常損失59百万円（前年同期は経常利益2億27百万円）、四半期純利益1億3百万円（前年同期比76.1%増）となりました。

なお、前年同期比増減数、前年同期比増減率は、参考として記載しております。また、事業別セグメントの状況は次のとおりであります。

（外食事業）

平成20年10月より、スタンプ式のポイントシステムに替えて磁気カード式のポイントカードシステムを導入いたしました。これにより、お客様のご来店履歴を蓄積し、ご予約時にC T I（Computer Telephony Integration）システムによりお客様情報を引き出すことで、お一人お一人に応じたきめ細かいサービスに活用いたします。また、テレビコマーシャルによりお客様のご利用シーンをイメージとして発信し気軽にご来店頂けるお店をアピールいたしました。

出店及び閉店についてみてまいりますと、梅の花は、12月に「川越店（埼玉県）」を出店し、67店舗（F.C.店1店舗含む）となりました。チャイナ梅の花4店舗、かにしげ3店舗、その他店舗は2店舗で、外食事業の全店舗数は76店舗、売上高は46億99百万円（前年同期比2.9%減）、営業利益4億41百万円（前年同期比5.9%減）となりました。

（テイクアウト事業）

出店及び退店についてみてまいりますと、寿司テイクアウト店は10月に「山口井筒屋店（山口県）」、「青葉台東急店（神奈川県）」、「戸塚丸井店（神奈川県）」、「静岡松坂屋店（静岡県）」、11月に「枚方近鉄店（大阪府）」、「星ヶ丘三越店（愛知県）」、「西宮阪急店（兵庫県）」を出店し、137店舗となりました。

梅の花テイクアウト店は、11月に「西宮阪急店（兵庫県）」を出店し、20店舗となりました。

その他店舗は、7店舗となりました。

従いましてテイクアウト事業の売上高は29億78百万円（前年同期比7.1%増）、営業利益1百万円（前期同期比93.6%減）となりました。

2. 連結財政状態に関する定性的情報

（1）連結財務状態の変動状況

当第1四半期連結会計期間末の総資産につきましては、前連結会計年度末と比べ16億38百万円増加し、210億53百万円となりました。これは主に設備資金の借入等により現金及び預金が5億34百万円、季節要因により売掛金が4億99百万円、新規出店及び製造設備の増加により有形固定資産が5億9百万円増加したことによるものであります。

負債の部につきましては、前連結会計年度末と比べ15億36百万円増加し、174億27百万円となりました。これは主に季節要因により買掛金及び未払金が4億17百万円、借入金の総額が8億94百万円増加したことによるものであります。

純資産の部につきましては、前連結会計年度末と比べ1億2百万円増加し、36億26百万円となりました。これは主に四半期純利益1億3百万円の計上によるものであります。

(2) キャッシュ・フローの状況

当第1四半期連結会計期間における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前連結会計年度末と比較して、6億53百万円増加し、13億52百万円となりました。

当第1四半期連結会計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は、次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果、得られた資金は4億76百万円となりました。

これは主に税金等調整前当期純損失62百万円の計上、非資金的費用である減価償却費2億83百万円及びのれん償却費28百万円を計上したこと等によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果、使用した資金は7億18百万円となりました。

これは主に定期預金の払戻による収入1億20百万円、新規出店に伴う有形固定資産の取得による支出8億39百万円等によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果、得られた資金は8億94百万円となりました。

これは主に金融機関からの借入の純増額8億94百万円等によるものであります。

3. 連結業績予想に関する定性的情報

当第1四半期連結会計期間の業績は概ね当初予想通りに推移しており、第2四半期連結累計期間及び通期の業績につきましても、現時点では平成20年12月1日に公表いたしました業績予想と変更はございません。

なお、業績予想につきましては、本資料の発表日において入手可能な情報に基づき当社で判断したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって予想と異なる場合があります。

4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）

該当事項はありません。

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

①当連結会計年度より「四半期財務諸表に関する会計基準」（企業会計基準第12号）及び「四半期財務諸表に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第14号）を適用しております。また、「四半期連結財務諸表規則」に従い四半期連結財務諸表を作成しております。

②従来、商品、加工品及び原材料については、移動平均法による原価法、貯蔵品については、先入先出法による原価法によっておりましたが、当第1四半期連結会計期間より「棚卸資産の評価に関する会計基準」（企業会計基準第9号 平成18年7月5日）が適用されたことに伴い、商品、加工品及び原材料については、移動平均法による原価法（貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切り下げの方法）、貯蔵品については、先入先出法による原価法（貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切り下げの方法）に変更しております。

これによる当第1四半期連結会計期間の損益及びセグメント情報に与える影響は軽微であります。

5. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	当第1四半期連結会計期間末 (平成20年12月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成20年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,659,543	1,125,455
売掛金	1,613,411	1,114,358
商品	37,022	41,593
製品	77,776	56,542
原材料	217,655	101,183
貯蔵品	48,172	31,648
繰延税金資産	142,751	205,094
その他	773,790	919,302
貸倒引当金	△7,358	△4,158
流動資産合計	4,562,765	3,591,021
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	7,024,659	6,721,654
機械装置及び運搬具（純額）	285,443	166,493
土地	4,596,274	4,595,270
建設仮勘定	83,851	215,943
その他（純額）	838,744	652,701
有形固定資産合計	12,828,973	12,352,063
無形固定資産		
のれん	1,011,123	1,039,894
その他	126,215	67,021
無形固定資産合計	1,137,339	1,106,916
投資その他の資産		
投資有価証券	85,416	86,808
長期貸付金	65,876	69,240
繰延税金資産	438,525	202,737
敷金及び保証金	1,795,417	1,863,187
その他	221,432	225,118
貸倒引当金	△82,236	△82,236
投資その他の資産合計	2,524,432	2,364,856
固定資産合計	16,490,745	15,823,836
資産合計	21,053,510	19,414,857

(単位：千円)

	当第1四半期連結会計期間末 (平成20年12月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成20年9月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	1,025,999	657,730
短期借入金	5,744,544	4,582,736
1年内返済予定の長期借入金	2,698,716	2,969,166
未払金	1,395,747	1,346,262
未払法人税等	32,787	34,959
賞与引当金	114,320	168,612
店舗閉鎖損失引当金	87,078	100,888
ポイント引当金	13,014	—
その他	544,074	460,480
流動負債合計	11,656,281	10,320,836
固定負債		
長期借入金	5,045,105	5,041,754
退職給付引当金	118,946	94,517
デリバティブ債務	570,468	391,934
その他	36,328	41,634
固定負債合計	5,770,848	5,569,841
負債合計	17,427,130	15,890,677
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,434,334	2,434,334
資本剰余金	1,811,323	2,515,667
利益剰余金	△618,806	△1,427,089
株主資本合計	3,626,851	3,522,912
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	△9,999	△8,261
為替換算調整勘定	△5,016	△5,016
評価・換算差額等合計	△15,015	△13,277
新株予約権	14,545	14,545
純資産合計	3,626,380	3,524,179
負債純資産合計	21,053,510	19,414,857

(2) 四半期連結損益計算書
(第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

当第1四半期連結累計期間
(自 平成20年10月1日
至 平成20年12月31日)

売上高	7,677,611
売上原価	2,473,911
売上総利益	5,203,700
販売費及び一般管理費	5,033,029
営業利益	170,670
営業外収益	
受取利息	5,103
受取配当金	78
受取保険料	311
受取手数料	2,557
雑収入	19,119
営業外収益合計	27,170
営業外費用	
支払利息	50,584
デリバティブ評価損	192,971
雑損失	14,058
営業外費用合計	257,613
経常損失(△)	△59,772
特別利益	
店舗閉鎖損失引当金戻入額	476
特別利益合計	476
特別損失	
固定資産除売却損	3,245
投資有価証券評価損	37
特別損失合計	3,283
税金等調整前四半期純損失(△)	△62,580
法人税、住民税及び事業税	7,109
法人税等調整額	△173,628
法人税等合計	△166,519
四半期純利益	103,938

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

当第1四半期連結累計期間
 (自 平成20年10月1日
 至 平成20年12月31日)

営業活動によるキャッシュ・フロー	
税金等調整前四半期純損失 (△)	△62,580
減価償却費	283,040
のれん償却額	28,889
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△54,292
店舗閉鎖損失引当金の増減額 (△は減少)	△13,810
退職給付引当金の増減額 (△は減少)	24,429
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	3,200
ポイント引当金の増減額 (△は減少)	13,014
受取利息及び受取配当金	△5,181
支払利息	50,584
固定資産除売却損益 (△は益)	3,245
デリバティブ評価損益 (△は益)	192,971
売上債権の増減額 (△は増加)	△499,052
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△149,658
仕入債務の増減額 (△は減少)	368,268
その他	234,843
小計	417,911
利息及び配当金の受取額	4,460
利息の支払額	△52,115
法人税等の支払額	△18,387
退店補償金の収入	125,000
営業活動によるキャッシュ・フロー	476,868
投資活動によるキャッシュ・フロー	
定期預金の預入による支出	△708
定期預金の払戻による収入	120,067
有形固定資産の取得による支出	△839,728
無形固定資産の取得による支出	△65,649
固定資産の除却による支出	△3,245
投資有価証券の取得による支出	△394
貸付金の回収による収入	781
敷金及び保証金の回収による収入	79,005
敷金及び保証金の差入による支出	△10,515
その他	2,255
投資活動によるキャッシュ・フロー	△718,131
財務活動によるキャッシュ・フロー	
短期借入金の純増減額 (△は減少)	1,161,808
長期借入れによる収入	700,000
長期借入金の返済による支出	△967,099
財務活動によるキャッシュ・フロー	894,709
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	653,446
現金及び現金同等物の期首残高	699,312
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,352,758

当連結会計年度より「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号)及び「四半期財務諸表に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第14号)を適用しております。また、「四半期連結財務諸表規則」に従い四半期連結財務諸表を作成しております。

(4) 継続企業の前提に関する注記
該当事項はありません。

(5) セグメント情報

a. 事業の種類別セグメント情報

当第1四半期連結累計期間(自平成20年10月1日 至 平成20年12月31日)

	外食事業 (千円)	テイクアウト 事業 (千円)	計 (千円)	消去又は全社 (千円)	連結 (千円)
売上高及び営業損益					
売上高					
(1) 外部顧客に対する売上高	4,699,381	2,978,229	7,677,611	—	7,677,611
(2) セグメント間の内部売上高 又は振替高	1,295,104	61,284	1,356,388	(1,356,388)	—
計	5,994,486	3,039,513	9,034,000	(1,356,388)	7,677,611
営業利益又は営業損失(△)	441,463	1,175	442,638	△271,968	170,670

(注) 1 事業区分の方法

事業区分は、内部管理上採用している区分によっております。

2 各区分に属する主要な事業の内容

(1) 外食事業・・・湯葉と豆腐懐石料理等の飲食店経営

(2) テイクアウト事業・・・とうふしゅうまい、湯葉揚げ、寿司等の持ち帰り専門店経営

3 営業費用のうち、消去又は全社の項目に含めた配賦不能営業費用273,208千円の主なものは、提出会社の総務・人事・経理部門等の管理部門に係わる費用であります。

b. 所在地別セグメント情報

当第1四半期連結累計期間(自平成20年10月1日 至 平成20年12月31日)

全セグメントの売上高の合計及び全セグメントの資産の金額の合計額に占める「日本」の割合がいずれも90%超であるため、記載を省略しております。

c. 海外売上高

当第1四半期連結累計期間(自平成20年10月1日 至 平成20年12月31日)

該当事項はありません。

(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

当社は、平成20年12月1日開催の取締役会において、資本準備金及び利益準備金の額の減少並びに剰余金の処分について決議し、平成20年12月30日開催の第29回定時株主総会にて承認可決されました。

会社法第448条第1項の規定に基づき、資本準備金7億4百万円をその他資本剰余金に、利益準備金37百万円を繰越利益剰余金に振り替えております。

また、会社法第452条の規定に基づき、別途積立金3億70百万円及びその他資本剰余金7億4百万円を繰越利益剰余金に振り替え、欠損填補しております。

この結果、繰越利益剰余金が10億74百万円増加いたしました。

「参考資料」

前四半期に係る財務諸表等

(1) (要約) 四半期連結損益計算書

科目	前年同四半期 (平成20年9月期 第1四半期)
	金額(千円)
I 売上高	7,621,998
II 売上原価	2,435,960
売上総利益	5,186,038
III 販売費及び一般管理費	4,919,738
営業利益	266,299
IV 営業外収益	38,357
1 受取利息及び受取配当金	12,806
2 その他	25,550
V 営業外費用	77,464
1 支払利息	58,667
2 雑損失	12,701
3 その他	6,095
経常利益	227,192
VI 特別利益	1,063
1 投資有価証券売却益	1,063
VII 特別損失	17,447
1 固定資産除売却損	3,673
2 投資有価証券売却損	12,903
3 その他	871
税金等調整前四半期純利益	210,807
法人税等	151,781
四半期純利益	59,025

(2) (要約) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

前第1四半期連結累計期間(自平成19年10月1日 至 平成19年12月31日)

前年同四半期は連結キャッシュ・フロー計算書を作成していないため、記載しておりません。

(3) セグメント情報

a. 事業の種類別セグメント情報

前第1四半期連結累計期間(自平成19年10月1日 至 平成19年12月31日)

前年同四半期は事業の種類別セグメント情報を作成していないため、記載しておりません。

b. 所在地別セグメント情報

前第1四半期連結累計期間(自平成19年10月1日 至 平成19年12月31日)

全セグメントの売上高の合計及び全セグメントの資産の金額の合計額に占める「日本」の割合がいずれも90%超であるため、記載を省略しております。

c. 海外売上高

前第1四半期連結累計期間(自平成19年10月1日 至 平成19年12月31日)

該当事項はありません。